

競 技 注 意 事 項

1. 本大会に適用する競技規則は、2019年度（公認）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項により実施する。
2. 練習については支部連絡事項を参照の上、指定区域内で行うこと。その他審判員・競技役員の指示に従うこと。

3. 競技者の招集について

- (1) 招集場所は競技場正面入口前方に設ける。
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、すべてプログラムの記載通りとする。

| 種 目 | 招集開始時刻 | 招集完了時刻 | 種 目 | 招集開始時刻 | 招集完了時刻 |
|---------|--------|--------|-------|--------|--------|
| トラック競技 | 25分前 | 15分前 | 棒 高 跳 | 70分前 | 60分前 |
| フィールド競技 | 40分前 | 30分前 | | | |

(3) 招集方法

- ア. 競技者又は代理人は、競技者招集所付近の掲示板に貼り出された出場競技者一覧表に○印をつけ、出場しない者は取り消し線を施すこと。なお、リレー競技はオーダーの提出をもってこれにあてる。また、該当競技を棄権する場合は、事前に競技者係に申し出ること。
- イ. 競技者は、出場種目の招集開始時刻には招集所に集合する。プログラム記載の招集開始時刻より点呼を始め、招集終了時刻には各競技場所への移動を開始する。
- ウ. 招集場所での点呼に不在だった競技者については、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
- エ. 他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨競技者係に申し出て出場を確認する。
- オ. 混成競技については、第1日目及び第2日目の最初の競技のみ全体の競技者招集所で点呼を行うが、2種目目からは混成競技招集所で混成競技係からチェックを受け混成競技招集所で待機をする。また、それぞれの競技場には混成競技係が誘導する。

4. 競技場への入退場について

- (1) 競技場への入場は、係員の誘導に従い規律ある行動をすること。競技者以外はトラック、フィールドに立ち入ることはできない。
- (2) トラック競技者は、決勝線に到着後、腰ナンバーカードを返却し選手出入り口を通り退場する。
- (3) フィールド競技者の退場については、当該競技役員・マーシャルの指示に従う。
- (4) 競技場内には、映像機器やミュージックプレーヤー、またスマートフォン等の通信機器を持ち込むことは出来ない。また、練習器具（メディシンボール等）も持ち込むことは出来ない。

5. ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは、交付された大きさのまま使用し、必ずユニフォームの胸背に確実に付けること。
(原則1枚につき、4カ所を止める)ただし、跳躍競技については、胸・背のいずれかでよい。
- (2) トラック競技出場者は腰ナンバーカードを招集所で受け取り、パンツ右側後方に番号が見えるように付けること。男女4×400m Rについては、2・3走はパンツ両側、4走はパンツ右側後方に付けること。
- (3) 3000m以上のトラック競技は、レーンナンバーカード（胸・背・腰）を使用する。

6. 走路順・競技順について

- (1) トラック競技の走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載どおりとする。
- (2) 準決勝以降のトラック競技の組み合わせ及び走路順、フィールド競技の試技順については、番組編成員により厳正に抽選し決定する。

7. 同タイムでのプラス進出者確定について

- (1) 800m以下の距離のトラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは写真判定を拡大し、細部（電気時計1/1000）まで読み取り着差を判定する。
- (2) 判定が不可能な場合は救済レーン（第9レーン）を使用するが、対象選手が救済可能なレーン数を上回る場合は、本人または代理人によって抽選する。ただし、800mでは安全上問題のない範囲で、スタートからブレイクラインまでのセパレートコースについては、一つのレーンに複数の選手を入れて競技を行う。
- (3) リレーを除く1500m以上のトラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは着差判定は行わずに対象者全員を次のラウンドに進出させる。

8. 競技について

- (1) 事故防止のため、短距離競技のフィニッシュ後も自分のレーン（曲走路）を走り、安全に減速すること。また、4×100mRの全てのバトンパス後、4×400mRの1走と2走のバトンパスの後も自分のレーンで減速、停止して安全を確認すること。
- (2) リレーのオーダーの提出は、予選・準決勝・決勝とも1組目の招集完了時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。提出時間に遅れたチームは、当該種目を棄権したとみなして処理する。
※申告したオーダー用紙の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。
※招集完了時刻前であっても、一度申告した編成の変更（オーダー用紙の差し替え）は認められない。
※医務員の判断による変更は出場者のみ認められ、編成（走る順番）の変更は認められない。
- (3) 男女4×100mRのテイク・オーバー・ゾーンは30mとする。
- (4) 競技規則第162条7により、不正スタートをした競技者は1回目で該当レースを失格とする。混成競技においては、1回のみ許されるが、その後に不正スタートをした競技者はすべて失格とする。
「On your marks」あるいは「Set」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害したとき、審判長がイエローカードを示し警告を与える場合がある。同一種目において2枚のイエローカードを受けた競技者は当該競技を失格とするが、それ以後の種目の出場は妨げない。
- (5) 競技規則第125条5及び第145条2に関する「スポーツマンにあるまじき行為」や「不適当な行為」が認められた場合には審判長の権限により警告が与えられる。これに該当する警告を2度与えられた競技者は失格となり、それ以降の本競技会における全ての種目への出場権を失う。また、監督・コーチ等にも警告が与えられる場合がある。
- (6) 競技場内での助力は一切禁止する。コーチングエリアやスタンドから助言を与える場合はマーシャルか該当種目の競技役員からの指示に従い、競技運営や他の競技者の妨げにならないように注意すること。また、コーチングエリアでは、映像機器の画像を競技者に見せ

ることは出来るが、手渡すことは出来ない。

応援は節度も持ち、大会の進行や競技運営に支障が出ないように行う。歌や、集団による飛び跳ね等は禁止する。

- (7) 男女の競歩競技においては制限時間を設ける。男子3分2分、女子3分8分以内に4600mを通過できなかった者は競技を中止させ失格とする。
- (8) 競技者の服装は所属校の定めたユニフォームを着用し、清潔をむねとし不体裁にならないこと。特に、リレーに出場する選手は上下統一したユニフォームを着用することが望ましい。(あまりにも色やデザインが違うものは避けること。レーシングとランニングの混在は許容する。)

9. 抗議について

- (1) 競技中に起きた競技者の結果及び行為に対する抗議は、当該競技者の監督により、その種目の結果が公式発表されてから30分以内、当日に次のラウンドが行われる場合は15分以内に行われなければならない。(その時の基準時刻は、場内アナウンスでの結果発表が終了した時刻とする。)抗議者は、担当総務員に申し出た後、口頭で審判長に抗議を行うものとする。
- (2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。抗議者が審判長裁定を不服として更に上訴する場合、上告申立書(大会本部に用意)に必要な事項を記載し、預託金10,000円を添えて申請すること。

10. バーの上げ方について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

| 種目 | 練習 | 1 | 2 | 備考 |
|-------|----|------|------|-------------------|
| 男子走高跳 | 予選 | 1m79 | 1m82 | 1m85 |
| | 決勝 | 1m82 | 1m85 | 1m88 以降3cmきざみ |
| 女子走高跳 | 予選 | 1m44 | 1m47 | 1m50 |
| | 決勝 | 1m47 | 1m50 | 1m53 以降3cmきざみ |
| 男子棒高跳 | 決勝 | 3m70 | 3m80 | 3m90 以降10cmきざみ |
| 女子棒高跳 | 決勝 | 2m30 | 2m40 | 2m50 以降10cmきざみ |

- (2) 走高跳・棒高跳で第1位を決める場合、及び全国大会出場権決定の場合の上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。
- (3) 混成競技については、混成競技審判長が決定する。

11. 予選通過記録

| | 走高跳 | 走幅跳 | 三段跳 | 砲丸投 | 円盤投 | ハンマー投 | やり投 |
|----|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 男子 | 1m85 | 6m40 | 12m90 | 12m70 | 35m50 | 36m50 | 50m00 |
| 女子 | 1m50 | 5m20 | 予選なし | 9m90 | 29m50 | 予選なし | 36m00 |

※上記の記録は、天候その他の条件により変更することもある。

12. 競技に使用する用器具は、棒高跳用ポール以外、すべて主催者が用意したものを使用する。ただし、やりは検定を受けて合格したものを使用できる。検定は大会期間中8:30~9:00の間に100mスタート側器具庫で実施する。その際、「やり検定申請書」とやりを持参する。検定合格したやりは、「預かり証」を発行のうえ一括借り上げし、参加競技者で共有できるものとする。借り上げたやりは、100mスタート側器具庫で投擲審判員が返却する。
13. 混成競技においてどの順位についても二人以上の競技者が同じ得点をとった場合は同成績とする。
14. 各種目で全国大会出場権の最終枠に複数の競技者がおり、規定のルールで着差や順位の確定が出来ない場合には対象競技者全員に全国大会出場権を与える。ただし、走高跳と棒高跳については、対象競技者により順位決定戦を行い、最終枠の順位を獲得した競技者にのみ全国大会出場権を与える。
15. 各種目、全国大会出場権を得た選手の表彰を行うので、結果発表後、表彰場所へ集合する。他の賞状は正面エントランスホールで受け取る。
16. ケガや体調不良に関しては、応急処置のみ行う。
17. 全国大会出場権を得た競技者の監督は、大会期間中に全国大会申込みを完了させること。全国大会参加枠については、本大会の要項で確認する。